

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月27日

### 【評価実施概要】

事業所番号	3870103185		
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミリー		
事業所名	グループホーム ファミール桑原		
所在地	松山市桑原7丁目1番36号 (電話) 089-921-4165		
管理者	谷本 貴子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	松山市持田町三丁目8番15号		
訪問調査日	平成19年7月11日	評価確定日	平成19年8月28日

### 【情報提供票より】 (19年6月1日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 15人, 非常勤 5人, 常勤換算	17.5人

#### (2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000~40,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 ( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

#### (3) 利用者の概要 (6月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	1 名	要支援2	1 名
年齢	平均 84.5 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

#### (4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定 あり (なし)	指定認知症対応型通所介護
届出 あり (なし)	短期利用型共同生活介護
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅や商店が密集している住宅地にあるマンションの1階部分にホームがある。中庭を囲むように2ユニットが配されており、窓からは近所の樹木が借景できる。ホーム開設後5年目を迎え、利用者や職員は家族的な信頼関係が構築されており、ゆっくりとした生活が提供できている。医師である運営者が医療面を支えているため安心感があり、他の医療機関との連携もスムーズである。また、ホーム開設後からの職員も多く、介護力の高さが垣間見える。終の棲家を実現するために、家族の協力のもと看取りも実践しており、終末期の方針も管理者や職員はもとより、関係機関とも共有できている。今後は利用者の生活の質を考え、地域とのつきあいを深めようと新たな取り組みを始めようとしている、向上心の高いホームである。

### 【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)	地域との関係が課題として挙げられていたが、お祭りへの参加、近隣の学校からのボランティアの受け入れなどに取り組んでいる。また、医療ニーズが高まってきたことに関して、看護師を中心に勉強会などを行い、ケアの質の向上に努めている。
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)	ユニット毎の主任、副主任とで自己評価の資料を作成し、それを基に職員全員で話し合いを持っている。管理者も職員も自己評価を自分の業務を客観的に見直す機会であると捉えており、真摯に取り組んでいる。
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)	運営推進会議は、開催時期も遅く回数もまだ1回目が開催されただけである。しかし、管理者は運営推進会議を地域との結びつきを堅固にするための機会と理解しており、8月に予定している2回目の会議からは積極的に取り組みたいと考えている。
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)	管理者や職員は、家族の面会時に積極的に利用者の日常生活について報告を行っている。また、面会の少ない家族には電話や郵送物で暮らしぶりを伝え、家族と利用者の繋がりを保つような関わりを行っている。家族との話し合いには、ケアプランの説明も行い、家族からの意見を聞く機会をつくっている。管理者やユニット長には傾聴する姿勢があり、家族が話しやすい雰囲気がある。
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)	利用者が地域住民として地元で密着して生活するためには、行事等の特別な場での交流だけでなく、日常的な近隣住民とのつきあいが求められる。散歩時の挨拶などで顔馴染みにはなっているので、お茶会などホームに招く機会等を増やしていくことも一考願いたい。

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

#### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール桑原

(ユニット名) Aユニット

記入者(管理者)  
氏名 谷本 貴子

評価完了日 平成19年 5月 21日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作っている。  (外部評価) ホーム開設時に、利用者の生活の質の向上に向けて「安心して生活ができる環境の提供」という理念を打ち出し、実践されている。しかし、「地域交流の支援」という理念については、概念化がなされておらず、地域の実情の把握も余り進んでいない。	※	理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。  管理者は、利用者が地域の住民として生活できることが必要であることは十分に認識できているが、その手法を模索中であるために、理念には具体性が見られない。理念を概念化し身近な目標設定を行うなどして、利用者が地域の一員となりうる内容の設定を望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地をしている。  (外部評価) 管理者と職員は、利用者のケアについて日常的に話し合いを持っており、その基盤は理念の実践であることが管理者や職員の話から理解できる。新しい職員には管理者から理念を伝えているが、先輩職員からも理念の考え方などの話がされており、理念が具体的なケアに結びつくような取り組みがなされている。		自然と意識できるような機会を増やすようにして、理念の実現に取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらおうような取り組みはできていない。		もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所の方や同じマンションの方々と、日常的なあいさつ程度の交流はあり、すこしづつではあるが、ボランティアとして援助していただいたり、行事の声掛けをした時に参加していただいたりと交流は増えてきている。		職員全員で地域で暮らす事の意味を理解し、日常的な交流を増やす機会を作る努力をしていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。  (外部評価) 地域の夏祭りやホームの花火会に近所の人を招待するなどの取り組み、学生ボランティアの受け入れなどを通して地域交流を行っている。しかし、普段の生活では外出時の挨拶程度で、日常的なつきあいが深まっているとは言いえない。	※	まずは、運営推進会議の際に当施設を理解していただく努力を続け、協力をしていただきながら参加できる機会を作っていきたい。  利用者が地域住民として地元で生活するためには、行事等の特別な場での交流だけでなく、日常的な近隣住民とのつきあいが求められる。まずは、ホームの上階で生活している高齢者や子どもとのふれあいから始めることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対しての取り組みはできていない。		地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくると思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないが、できることから改善して行くとしている。  (外部評価) 管理者、職員共に、自己及び外部評価は利用者に対するケアの質の向上を図る機会と捉えており、真摯に取り組んでいる。自己評価は、まず主任と副主任とで検討し、それを職員全員で話し合って作成されている。		全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にしていきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の初回開催が遅かったので、まだ十分機能していません、サービス向上に活かされるのはこれからだと思う。  (外部評価) 運営推進会議は今年3月に第1回目が行われているが、その後は開催されておらず、8月に第2回目が予定されている。内容はホームの説明などに留まっており、利用者のサービス向上にまでは繋がっていない。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるので、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。  管理者は、運営推進会議を通じて地域の民生委員や自治会と膝を交えた話し合いが持てたことで、地域密着型のホームの方向性を見出している。利用者と共に地域のつきあいを始めるきっかけとして、運営推進会議を上手く活用することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。  (外部評価) 松山市はホーム数が多く、ホームと市職員が直接的に連携する機会が少ない。しかし、地域包括支援センターとの連携が上手く取れ始めており、包括の担当地区内にあるホーム間の情報交換を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、成年後見制度を利用している方1名いて、今後も必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしている。		特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでいきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めている。		継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。 <hr/> (外部評価) 管理者は家族の面会時には積極的に利用者の日常生活について報告を行い、面会の少ない家族には電話や郵送物で暮らしぶりを伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。 <hr/> (外部評価) 家族の面会時や、家族を含めた行事を年4回程度行っており、その折にケアプランの説明を行い、家族からの意見を聞く機会をつくっている。管理者やユニット長には傾聴する姿勢があり、家族が話しやすい雰囲気醸成されており、評価できる。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 職員と利用者との馴染みの関係を優先する人事が取られており、問題はない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて計画的には行っていないが、研修の機会があれば必要と思われる職員には受けてもらうようにしている。また、参考になりそうな研修の案内が来たときは掲示している。  (外部評価) 職員には研修会の紹介を行っており、また、必要な研修には積極的に参加するように勧めている。しかし、職員間に受講状況の開きがあり、職員の段階に応じての研修がなされているとは言えない。	※	段階ごとに計画して行うようにしていきたい。  研修の受講は職員の意向ではなく、勤務年数やキャリア、段階などホーム側での計画性が求められる。また、向上心の強い職員のために、ホーム内研修など身近で受講できる仕組みも期待したい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 見学や研修等の要望がある際は積極的に受け入れており、情報交換の良い機会と捉えている。  (外部評価) 研修会などで一緒になる同業者の人との話し合いで、小さなヒントになったり、向上心を高めたりすることがあり、その有用性は承知しているが、同法人のホームとの交流程度で、ネットワークづくりまでには至っていない。	※	見学、研修の機会を増やし、情報交換、ネットワーク作りを積極的に行い、職員のサービスの質の向上に取り組みたい。  地域包括支援センターを中心に、管轄エリア内のホーム連絡会が行われようとしている。これを機に、同業者での勉強会や相互訪問など、利用者のサービスに直結する情報交換を始めることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の交流会を提案したりしているが、職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。		今後もできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。		職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。  (外部評価) 利用者は病院からの移転が多く、本人が直接訪れる場合もあるが、多くは家族がホームを見学し利用するケースである。そのために、本人が職員やホームの雰囲気に馴染み、関係が構築されてからの利用は少ない。	※	運営者が医師であるために、今後も病院からの利用者が多い傾向は続くと思われるが、近隣の人のお茶会など外部の人がホームを活用しやすい工夫を望みたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 日常生活での会話から、生活の知恵を教えて頂く事も多く、それを生かしていく努力をしている。また、入居者同士の関わりの中での支え合いの場面も支援できるようにしている。  (外部評価) 開設当初は料理等家事全般を共に行っていたが、利用者の身体機能の低下や認知症の進行などにより、喜怒哀楽を共にする事で精神的な支えあいが中心となっている。職員や管理者は利用者の話に耳を傾け、その意図を受け止めようとしている。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけな
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族にしか出来ないケアがあると思うので、細かく情報を提供し、家族と相談しながら一緒に支えていく意識を持って頂ける様に協力してもらっている。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけな

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在そういった関係の利用者、家族はいない。		必要としている利用者や家族とはそうしていくつもりである。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 職員や管理者は利用者の話に耳を傾け、本人の意向や希望を受け止めようとしている。しかし、認知症の進行などで自己表出が少なくなっている。利用者の意図を理解するには、生活歴などの背景を熟知することが求められるが、記録化がなされておらず、職員間に情報の格差ができる要因がある。	※	利用者の情報は、ケア会議などを通じて、報告や話し合いが行われているが、日々のケアの中で知れたことが全職員に周知されるまでには時間がかかる。また、新規職員には一からの口伝となるため、アセスメントシートなどへの生活歴の記録化が求められる。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 介護計画の項目を「ケアチェック表」で毎日の実践を記録している。記載内容が介護計画と直結しているため、職員全員が介護計画を意識しながらケアを行っていることが分かる。家族からの意見なども取り入れて介護計画を作成していることは評価できる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 介護計画の見直しは二段階方式がとられている。毎月のケア会議では、ケアチェック表に基づき介護計画の実践が現状に即しているかを話し合い、介護認定の更新時には客観的な事実や巨視的な視野から介護計画を見直し、利用者のケアの質を検討しており、評価できる。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。  (外部評価) 遠方であるために利用者への家族からの支援が難しい場合に、ホームが通院や特別な外出の援助などを行っている。また、ユニット長が「何でも屋」的なユニークな存在として利用者の細々とした支援を行っていることも評価できる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議での係わりがあるが、現在具体的にそういう例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様になっている。  (外部評価) 運営者が協力病院である総合病院の医師であるため、かかりつけ医として利用者の支援を行っている。また、本人や家族の希望を取り入れ、他のかかりつけ医の利用者もおられるが、管理者と共に運営者は連携に努めている。医師である運営者は専門性の重要性を熟知しており、利用者の状況に応じて専門医の受診を積極的に勧めている状況は、利用者の健康状態を第一とした支援であり、評価できる。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様になっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様になっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。 (外部評価) 家族からの希望により看取りを行った経験がある。その時に、医療との連携の重要性、それに増しての家族の協力の必要性を実感している。今後も家族と本人の希望があれば看取りを行っていく意向はあるが、段階に応じて家族との話し合いを繰り返しながら行うべきであるとの認識が管理者や職員にあり、終末期に向けての方針が共有されている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。 (外部評価) 人生の先輩として利用者の尊厳を守るよう、言葉かけや内容に十分配慮している。利用者の誇りやプライバシーを損ねることなく、一人ひとりに暖かい声かけや関わりがなされている。情報管理も丁寧に行っており、人として尊重されている安心感がある。		お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者のペースを優先させている。職員の会話や態度に生活を楽しんでもらうということが見受けられ、ゆっくりとできる雰囲気がある。昼食時に利用者から「ここはええとこぞな」と繰り返し聞かれた背景には、その人らしい暮らしが支援されていることがうかがえる。		工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度の要介護者の割合が多くなり、参加できる人が少なくなってきたり、参加できることも少なくなってきたりするので、部分的に準備や片付けに参加してもらっている感じになっている。  (外部評価) 利用者の身体機能の低下により、食事の準備や後片付けをできる人が少なくなってきたり、利用者が食事を楽しむことに五感を活用することを意識し、匂いや音などに配慮している。職員が食材や調理方法について話しかけていることも食事を楽しむことに一役買っている。		準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。オムツの使用を減らすことは、状態を見ながらできそうなことがあると思う。		オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ほぼ出来ている。  (外部評価) 入浴の時間は午後からであるが、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。また、入浴介護は職員が利用者との信頼関係を深める援助であるとの認識があり、丁寧に支援が行われている。		今後も個々の希望を取り入れて支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者のできること、難しいことのアセスメントがなされており、一人ひとりが役割を担うような支援が行われている。職員には待つ姿勢が徹底されており、時間がかかっても自分でできることは見守っている。終わると利用者の張り合いになるような声かけが行われている。		工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) おおむね出来ている。  (外部評価) 車いすを使用している利用者や活動意欲の顕著に低下した利用者などの増加により、日常的な外出の頻度は少ない。日用品の買い物に同行する利用者も限られており、テラスで外気に触れることの支援が中心となり、積極的な外出支援が行われているとは言えない。	※	特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。  地域住民とのふれあいを通じて、利用者の外出意欲を向上させることも含めて、外出は利用者の生活を活性化するために必要なことである。ボランティアの協力なども視野に入れ、積極的な外出を促す働きかけを期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 十分でないかもしれないが、そういう対応をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンス で取り上げたこともあり、全職員で身体拘束を しないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は 家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止 に向けて定期的に話し合いを持つようにしてい る。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄 関に鍵をかけることの弊害を理解してお り、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。  (外部評価) 玄関等の鍵は、夜間の防犯のため以外には掛けら れていない。不穏な状態の利用者には、寄り添っ て話を聞くことや共に外出することなどで、本人 が安心できるような支援を行っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しなが ら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握 し、安全に配慮している	(自己評価) 同様にしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのは なく、一人ひとりの状態に応じて、危険を 防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応してい る。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を 防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態 に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) カンファで話し合い取り組んでい る。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全て の職員が応急手当や初期対応の訓練を定期 的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練 は年1回は行っているが、実際にその様な事態に なった時に全職員が落ち着いて対応できるほどに はなっていないと思う。		回数を重ねることでより落ち着いて対応できるよ うになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っ ていきたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。  (外部評価) ホーム内での避難訓練や災害時の対応策は取られているが、地域と連携し、協力が得られるような働きかけは行っていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。  運営推進会議で民生委員や自治会と繋がりが持て始めた時期であり、地区の婦人防災クラブの情報も得ている。地域との連携に関して今後の取り組みに期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段との様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) おおむね出来ている。  (外部評価) 利用者の状態に応じて刻み食、ミキサー食などにも対応しており、胃ろうの利用者にも医療と連携のもと適切な管理が行われている。家庭的な食事の提供を意識しており、職員も自慢しているとおもいきり美味しくバランスの良い食事が提供されているが、栄養摂取の管理までは行っていない。	※	メニュー表の作成も行われており、肉や野菜のバランスも考えられている。栄養士などと相談し、専門的な知識に裏打ちされた管理を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行き、買い溜めや翌日までの作り置きというのも基本的にしていないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関入り口は緩やかな勾配でスロープ状にしていて手摺を取り付けており、玄関周りに草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂・居間がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっていた。 (外部評価) ゆったりとした共用空間に、利用者の趣味の作品や行事の際の写真などを飾り付け、落ち着ける空間を演出している。ユニット毎の造りも異なり、それぞれの特色のある生活感を醸し出しており、採光や通風にも工夫が見られる設えで、心地よい空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用しているようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているので、以前使用していたベッドや仏壇を持込んでいる利用者もいる。 (外部評価) 使い慣れたタンスや布団、家族の写真などを飾るなど居心地よく過ごせる居室への配慮が見受けられた。部屋の目印も利用者の好みに応じて様々な物が飾られている。		



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下に手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごさせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴の時間以外は比較的本人のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	平日は、ほぼ毎日訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることが出来るようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	この前に第1回の運営推進会議が行われたような状況なので、交流が広がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれたりというのにはあった。
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事中はそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価) グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### V. サービスの成果に関する項目

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!**

ーサービス向上への3ステップー  
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム ファミール桑原

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)  
氏名 谷本 貴子

評価完了日 平成19年 5月 21日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 作っている。  (外部評価) ホーム開設時に、利用者の生活の質の向上に向けて「安心して生活ができる環境の提供」という理念を打ち出し、実践されている。しかし、「地域交流の支援」という理念については、概念化がなされておらず、地域の実情の把握も余り進んでいない。	※	理念をもっと具体的なもので分かりやすくしたほうが良いとの指摘もあるので、今後検討していきたい。  管理者は、利用者が地域の住民として生活できることが必要であることは十分に認識できているが、その手法を模索中であるために、理念には具体性が見られない。理念を概念化し身近な目標設定を行うなどして、利用者が地域の一員となりうる内容の設定を望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日誌やロビーに理念を明記して普段から意識しやすいようにしているのと、カンファレンスやケアプラン作成時の基本的下地になっている。  (外部評価) 管理者と職員は、利用者のケアについて日常的に話し合いを持っており、その基盤は理念の実践であることが管理者や職員の話から理解できる。新しい職員には管理者から理念を伝えているが、先輩職員からも理念の考え方などの話がされており、理念が具体的なケアに結びつくような取り組みがなされている。		自然と意識できるような機会を増やすようして、理念の実現に取り組んでいきたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のときに理念の話をしたり、ホームページの中に理念の記載もあるが、積極的に理念について理解してもらおうような取り組みはできていない。		もっと地域との関係が深まれば自然と理念についても理解していただけるようになると思うが、それがまだまだ不十分なので少しずつでも地域の中に溶け込めるような働きかけをしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 年に1回ホームで花火をする時に近所に声をかけるようにしているが、他はあいさつ程度で、日常的な付き合いとまではなっていない。		ホーム近くの住民が職員として数名いるので、そこからでも徐々に日常的な付き合いを広げていきたい。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭は声をかけていただいて部分的に参加させていただくこともあるが、他の事はできていない。  (外部評価) 地域の夏祭りやホームの花火会に近所の人を招待するなどの取り組み、学生ボランティアの受け入れなどを通して地域交流を行っている。しかし、普段の生活では外出時の挨拶程度で、日常的なつきあいが深まっているとまでは言えない。	※	少しずつでも交流を増やす努力をしていきたい。  利用者が地域住民として地元で生活するためには、行事等の特別な場での交流だけでなく、日常的な近隣住民とのつきあいが求められる。まずは、ホームの上階で生活している高齢者や子どもとのふれあいから始めることを期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域交流自体がまだ十分でないので、地域の高齢者に対しての取り組みはできていない。		地域交流が進めば、自然とそういう機会も増えてくると思うので、まずは地域との交流の機会をふやすことから始めていきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 十分でないが、できることから改善して行こうとしている。  (外部評価) 管理者、職員共に、自己及び外部評価は利用者に対するケアの質の向上を図る機会と捉えており、真摯に取り組んでいる。自己評価は、まず主任と副主任とで検討し、それを職員全員で話し合っ作成されている。		全てここに書かれてあるようにはできないが、より良いサービスを提供する指針になっているので、定期的な反省や見直しの良い機会だと考え、今後も評価を参考にすることができるから改善していきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議の初回開催が遅かったので、まだ十分機能してなく、サービス向上に活かされるのはこれからだと思う。  (外部評価) 運営推進会議は今年の3月に第1回目が行われているが、その後は開催されておらず、8月に第2回目が予定されている。内容はホームの説明などに留まっており、利用者のサービス向上にまでは繋がっていない。	※	外部の目が定期的に入ることで、一定のサービスレベルの維持につながるので、今後はこれをより良いサービスができるように活かしていきたい。  管理者は、運営推進会議を通じて地域の民生委員や自治会と膝を交えた話し合いが持てたことで、地域密着型のホームの方向性を見出している。利用者と共に地域のつきあいを始めるきっかけとして、運営推進会議を上手く活用することを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ報告や話し合いを行っている。  (外部評価) 松山市はホーム数が多く、ホームと市職員が直接的に連携する機会が少ない。しかし、地域包括支援センターとの連携が上手く取れ始めており、包括の担当地区内にあるホーム間の情報交換を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在Bユニットには成年後見制度を利用している人はいないが、必要とおもわれる人にはこういう事業や制度があることを話すようにしていきたい。		特に地域権利擁護事業については詳しく知らない職員がほとんどなので、今後研修に参加するなどして学んでいきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンス時に話しをしたりして虐待防止に努めている。		継続して学ぶ機会を持つなどし、常に意識していくようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様に行っている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に様子を伝えたり、掲示板に日常の様子を撮った写真を貼ったり、時々家族にも写真を印刷し送っている。金銭管理についても面会時に確認してもらっている。 <hr/> (外部評価) 管理者は家族の面会時には積極的に利用者の日常生活について報告を行い、面会の少ない家族には電話や郵送物で暮らしぶりを伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 同様に行っている。 <hr/> (外部評価) 家族の面会時や、家族を含めた行事を年4回程度行っており、その折にケアプランの説明を行い、家族からの意見を聞く機会をつくっている。管理者やユニット長には傾聴する姿勢があり、家族が話しやすい雰囲気醸成がされており、評価できる。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにしており、その時に意見や提案を聞くようにして、反映できる事については対応するようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 同様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 職員と利用者との馴染みの関係を優先する人事が取られており、問題はない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じて計画的には行えていないが、研修の機会があれば必要と思われる職員には受けてもらうようにしている。また、参考になりそうな研修の案内が来たときは掲示している。  (外部評価) 職員には研修会の紹介を行っており、また、必要な研修には積極的に参加するように勧めている。しかし、職員間に受講状況の開きがあり、職員の段階に応じての研修がなされているとは言えない。	※	段階ごとに計画して行うようにしていきたい。  研修の受講は職員の意向ではなく、勤務年数やキャリア、段階などホーム側での計画性が求められる。また、向上心の強い職員のために、ホーム内研修など身近で受講できる仕組みも期待したい。
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ホームページを参考にしたり、他の施設に知人がいる職員同士での情報交換は見られるが、相互訪問等を行っていない。  (外部評価) 研修会などで一緒になる同業者の人との話し合いで、小さなヒントになったり、向上心を高めたりすることがあり、その有用性は承知しているが、同法人のホームとの交流程度で、ネットワークづくりまでには至っていない。	※	相互訪問は今のところ考えていないが、研修等に参加した時に情報交換ができるので、そういう機会はできるだけ増やしていきたい。  地域包括支援センターを中心に、管轄エリア内のホーム連絡会が行われようとしている。これを機に、同業者での勉強会や相互訪問など、利用者のサービスに直結する情報交換を始めることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員同士の交流会を提案したりしているが、職場環境については施設の構造上や経営上の制約からまだ不十分なことが多いと思う。		今後もしもできることから少しずつでも改善して行くよう取り組んでいきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 十分でないがそのように努めている。		職員が継続して向上心を持って働き続けられるよう努力したい。



自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 同様にしている。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 必要と思われる利用者には同様にしている。 <hr/> (外部評価) 利用者は病院からの移転が多く、本人が直接訪れる場合もあるが、多くは家族がホームを見学し利用するケースである。そのために、本人が職員やホームの雰囲気に馴染み、関係が構築されてからの利用は少ない。	※	運営者が医師であるために、今後も病院からの利用者が多い傾向は続くと思われるが、近隣の人とお茶会など外部の人がホームを活用しやすい工夫を望みたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。 <hr/> (外部評価) 開設当初は料理等家事全般を共に行っていたが、利用者の身体機能の低下や認知症の進行などにより、喜怒哀楽を共にする事で精神的な支えあいを中心となっている。職員や管理者は利用者の話に耳を傾け、その意図を受け止めようとしている。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけな
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういう意識を持って接するように努力しているが、まだ足りないことが多いと思う。		こういったことは常に意識しておかないといけないことであり、継続するための努力を続けたいといけな

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 同様にしている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 現在そういった関係の利用者、家族はいない。		必要としている利用者や家族とはそうしていくつもりである。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 職員や管理者は利用者の話に耳を傾け、本人の意向や希望を受け止めようとしている。しかし、認知症の進行などで自己表出が少なくなっている。利用者の意図を理解するには、生活歴などの背景を熟知することが求められるが、記録化がなされておらず、職員間に情報の格差ができる要因がある。	※	利用者の情報は、ケア会議などを通じて、報告や話し合いが行われているが、日々のケアの中で知れたことが全職員に周知されるまでには時間がかかる。また、新規職員には一からの口伝となるため、アセスメントシートなどへの生活歴の記録化が求められる。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 介護計画の項目を「ケアチェック表」で毎日の実践を記録している。記載内容が介護計画と直結しているため、職員全員が介護計画を意識しながらケアを行っていることが分かる。家族からの意見なども取り入れて介護計画を作成していることは評価できる。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 介護計画の見直しは二段階方式がとられている。毎月のケア会議では、ケアチェック表に基づき介護計画の実践が現状に即しているかを話し合い、介護認定の更新時には客観的な事実や巨視的な視野から介護計画を見直し、利用者のケアの質を検討しており、評価できる。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 出来る限り対応している。  (外部評価) 遠方であるために利用者への家族からの支援が難しい場合に、ホームが通院や特別な外出の援助などを行っている。また、ユニット長が「何でも屋」的なユニークな存在として利用者の細々とした支援を行っていることも評価できる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 現在特に当てはまる例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 必要性に応じて同様におこなっている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議での係わりがあるが、現在具体的にそういう例はまだない。		必要性に応じて同様におこないたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 同様になっている。  (外部評価) 運営者が協力病院である総合病院の医師であるため、かかりつけ医として利用者の支援を行っている。また、本人や家族の希望を取り入れ、他のかかりつけ医の利用者もおられるが、管理者と共に運営者は連携に努めている。医師である運営者は専門性の重要性を熟知しており、利用者の状況に応じて専門医の受診を積極的に勧めている状況は、利用者の健康状態を第一とした支援であり、評価できる。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 同様になっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 同様になっている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 同様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階というわけではないが、必要と考えられる場合には同様に話し合いをしている。  (外部評価) 家族からの希望により看取りを行った経験がある。その時に、医療との連携の重要性、それに増しての家族の協力の必要性を実感している。今後も家族と本人の希望があれば看取りを行っていく意向はあるが、段階に応じて家族との話し合いを繰り返しながら行うべきであるとの認識が管理者や職員にあり、終末期に向けての方針が共有されている。		
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 同様にしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 同様にしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 同様の対応を心がけているが、言葉遣いが友達言葉のようになることもある。  (外部評価) 人生の先輩として利用者の尊厳を守るよう、言葉かけや内容に十分配慮している。利用者の誇りやプライバシーを損ねることなく、一人ひとりに暖かい声かけや関わりがなされている。情報管理も丁寧に行っており、人として尊重されている安心感がある。		お互いに注意しあうようにしていたり、毎月のカンファレンスの時に利用者への対応についてなど、振り返り注意するようにしている。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上の制約もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら出来る範囲で個人のペースを大切にしている。  (外部評価) 生活のリズムを守るために一日の大きな流れは決まっているが、利用者のペースを優先させている。職員の会話や態度に生活を楽しんでもらうということが見受けられ、ゆっくりとできる雰囲気がある。昼食時に利用者から「ここはええとこぞな」と繰り返し聞かれた背景には、その人らしい暮らしが支援されていることがうかがえる。		工夫次第で、今以上に個人のペースに合わせられることも出来ると思うので、そのように努力していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) あまり遠くの店の場合は近くの店に変更する場合もあるが、同様にしている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 参加する人が決まってきたいて、参加しようとする人は能力的にはできても参加していない状況がある。  (外部評価) 利用者の身体機能の低下により、食事の準備や後片付けをできる人が少なくなってきたが、利用者が食事を楽しむことに五感を活用することを意識し、匂いや音などに配慮している。職員が食材や調理方法について話し合っていることも食事を楽しむことに一役買っている。		準備や片付け等、参加できる利用者にはできるだけ継続し参加していただくように働き続ける。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 体重管理や医療面での制限がある場合もあるが、同様にしている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) これまでの排泄パターンから時間誘導するなどし、失敗を少なくするような対応はしている。オムツの使用を減らすことは、状態を見ながらできそうなことがあると思う。		オムツの使用を減らすことは工夫次第でまだできそうなので、今後も改善できることはしていきたい。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 何かしら援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上すべて本人の希望どうりにはできていない。  (外部評価) 入浴の時間は午後からであるが、タイミングや回数は利用者の希望に沿うように行われている。また、入浴介護は職員が利用者との信頼関係を深める援助であるとの認識があり、丁寧に支援が行われている。		利用者の希望も取り入れながら、できる範囲で個々の希望を取り入れていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 同様にしている。  (外部評価) 利用者のできること、難しいことのアセスメントがなされており、一人ひとりが役割を担うような支援が行われている。職員には待つ姿勢が徹底されており、時間がかかっても自分でできることは見守っている。終わると利用者の張り合いになるような声かけが行われている。		工夫することで内容の充実を図れるようにしていきたい。
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 同様にしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) その日の希望に添っての外出は、職員の体制や家族等の協力が必要には取れないことも多く、希望どりの外出になっていないことも多い。また、外出を希望する方も限られてきている。  (外部評価) 車いすを使用している利用者や活動意欲の顕著に低下した利用者などの増加により、日常的な外出の頻度は少ない。日用品の買い物に同行する利用者も限られており、テラスで外気に触れることの支援が中心となり、積極的な外出支援が行われているとは言えない。	※	特に希望が出ない方にも外出の機会を作り、戸外に出かけるようにしていきたい。  地域住民とのふれあいを通じて、利用者の外出意欲を向上させることも含めて、外出は利用者の生活を活性化するために必要なことである。ボランティアの協力なども視野に入れ、積極的な外出を促す働きかけを期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 十分でないかもしれないが、そういう対応をしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 同様にしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスで取り上げたこともあり、全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむ終えない場合は家族と話し合い必要最小限の方法にし、拘束廃止に向けて定期的に話し合いを持つようにしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 同様に取り組んでいる。  (外部評価) 玄関等の鍵は、夜間の防犯のため以外には掛けられていない。不穏な状態の利用者には、寄り添って話を聞くことや共に外出することなどで、本人が安心できるような支援を行っている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 同様にしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 個人の状態に合わせて対応している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 基本的な応急手当の講習や消防訓練は年1回は行っているが、実際にその様な事態になった時に全職員が落ち着いて対応できるほどにはなっていないと思う。		回数を重ねることでより落ち着いて対応できるようになると思うので、繰り返し講習や訓練を行っていききたい。




自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域との協力関係作りがまだほとんどできていない。  (外部評価) ホーム内での避難訓練や災害時の対応策は取られているが、地域と連携し、協力が得られるような働きかけは行っていない。	※	地域の人々の協力を得るための働きかけがまだ不十分なので、今後交流をしていくことで協力を得られるような関係作りをしていきたい。  運営推進会議で民生委員や自治会と繋がりが持て始めた時期であり、地区の婦人防災クラブの情報も得ている。地域との連携に関して今後の取り組みに期待したい。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 理解力の低下や運動機能の低下から事故につながる可能性が高かったり、病状が急変する可能性がある方など状態の変化に応じて家族と対応について相談している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタル測定だけでなく普段との様子の違いに注意するようにし、何か気がついた時は申し送りノートに記入するなどして情報を共有し対応するようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方されている薬について、薬局から出されている説明文を個人ファイルに閉じてあり、必要に応じて確認できるようにしている。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排便チェック表を作り各利用者の傾向をつかむと同時に、食事や運動だけでは排便につながらない場合の下剤の使用量や使用間隔の参考にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 同様にしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の形態や水分摂取の回数など個別の対応が必要な方にはその様に対応している。  (外部評価) 利用者の状態に応じて刻み食、ミキサー食などにも対応しており、胃ろうの利用者にも医療と連携のもと適切な管理が行われている。家庭的な食事の提供を意識しており、職員も自慢しているとおり美味しくバランスの良い食事が提供されているが、栄養摂取の管理までは行っていない。	※	メニュー表の作成も行われており、肉や野菜のバランスも考えられている。栄養士などと相談し、専門的な知識に裏打ちされた管理を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 使い捨て手袋を使用したり、ペーパータオルを使用したりと、一般的な感染症対策マニュアルを参考に、ホームで実現可能なマニュアルを作り対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 毎日調理器具は漂白殺菌等をし、食器類は食器乾燥機で乾燥し、食材についても毎日買物に行き、買い溜めや翌日までの作り置きというのも基本的にしていないようにしている。材料の賞味期限も随時確認している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 建物の立地条件からBユニットは奥のほうにあり、近隣の人には分かりにくい感じになっている。中庭には草花を植えて親しみやすくしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 台所から食堂や居間全体が見通せるようになっていないが、食堂の窓は大きく開放感があり、においや音は感じられるようになっている。また、各所に観葉植物や絵を飾っている。 (外部評価) ゆったりとした共用空間に、利用者の趣味の作品や行事の際の写真などを飾り付け、落ち着ける空間を演出している。ユニット毎の造りも異なり、それぞれの特色のある生活感を醸し出しており、採光や通風にも工夫が見られる設えで、心地よい空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースにソファを置いたり、中庭にもベンチを置いて自由に利用していいようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に入るものであれば馴染みの物を自由に持込んで構わないようにしているため、以前使用していたベッドや仏壇を持込んでいる利用者もいる。 (外部評価) 使い慣れたタンスや布団、家族の写真を飾るなど居心地よく過ごせる居室への配慮が見受けられた。部屋の目印も利用者の好みに応じて様々な物が飾られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 同様にしている。		
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ内の広さや廊下の幅などは車椅子も利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差もなるべく無くすようにしている。またトイレ・浴室・廊下到手摺を取り付けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 共同で利用する場所や個人の居室に名前の表示をし、各所にカレンダーや時計を設置し日時も確認しやすいようにしている。また、個人的にも混乱や失敗を少なくする対応を心がけている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 裏庭に物干し場や菜園があり、利用者と一緒に洗濯物を干したり、野菜を植え一緒に育てたりしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ①ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	普段の会話の中や行動にそういった内容が表れており、そのことをカンファレンスの時に気がついた職員が話したり、申し送りノートに記入し情報の共有をしている。また、各ユニットの職員も基本的に固定しているので、職員が利用者の状態について把握しやすいようになっている。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	おやつの時などはゆったりと過ごさせている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	食事や入浴の時間以外は比較的本人のペースですごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつもとはいかないが、寝たきりの利用者も職員の働きかけで笑顔が見られたりしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者や家族の事情と職員体制上の事情で必ずしも行きたい所へ行くことは出来ていない。ただ、本人の意思確認が困難な利用者も車イス介助で近所に出かけたりする機会を作っている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	平日は、ほぼ毎日訪問診療医の往診があり、24時間連絡体制が取れていて緊急時の指示も受けることが出来るようになっているので、主治医が別の利用者であっても一時的にでも何らかの対応が可能にはなっている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の思い通りにというのは難しいこともあるが、家族と連絡をとったり職員体制の調整をしたりして希望をかなえるようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ほぼすべての家族とそうできていると思っているが、家族が本当はどう思っているかは分からない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ①ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	利用者の知人等の面会は数日に1回以上の割合であるが、それ以外の地域の方の訪問はあまり無い。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	この前に第1回の運営推進会議が行われたような状況なので、交流が広がったというのはまだないが、これまでも町内会の方が地区のお祭りや行事の案内をしてくれていたりというのはあった。
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	すべての職員が個々の健康状態や家庭の事情などで、何らかのストレスを抱えているだろうし、仕事上でも何らかのストレスを抱えていると思うが、仕事中はそういったことを見せないように明るい雰囲気を作るよう努力して働いている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者自身のあきらめのような納得があるのかもしれないが、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	これも上記と同じく、特に不満の声を聞いていないのと、何か希望があったときはできるだけ対応しているので、おおむね満足していただいているのではと思う。

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価) グループホームは家庭的といっても、一般的な認識ではやはり施設と考えられているので、やはり家庭的な雰囲気というものを大切にしていきたい。どうしても施設に近づいて行事や普段の生活も集団行動的になっていく傾向があると思うので、安心してくつろげる家庭という雰囲気を大切にしていきたい。